

愛媛大・落合さん独へ

ノーベル受賞者との会議で

歴代のノーベル受賞者らがドイツ南部の保養地・リンダウに集まって世界の若手科学者と交流する「リンダウ・ノーベル受賞者会議」(28日～7月3日)。日本からは今回、13人が派遣される予定で、愛媛大沿岸環境科学

人が招かれる。同時に、次代を担う35歳以下の研究者も招かれ、今年650人以上が出席して受賞者による講演を聴くほか、討論会に参加して受賞者と間近に接したり、同世代の研究者と国際的なネットワークを築く。

月から日本学術振興会の特別研究員になり、愛媛大に所属しながら同振興会の委託研究を続けている。

学研究センターの落合真理さん(32)は環境機能科学もその一人に選ばれた。「世界の若手研究者とできるだけ接したい」と心待ちにしている。

落合さんは名古屋出身。小学生の時からシャチやイルカに興味を持ち、米カリフォルニア大サンタクルーズ校で海洋生物学を学んだ。卒業後は地球規模の環境汚染が鯨類に及ぼす影響をつかむため、愛媛大大学院に入

国際会議での発表や国際専門誌に掲載された論文が評価され、今回の参加となった。落合さんは「大変なサプレイズ」と喜ぶ。たんぱく質の研究で大きな実績を残したイストラエルの生化学者アーロン・チカノーバー氏(2004年化学賞)らの講演を心待ちにしており「世界の研究者たちがどんなことを考え、彼らとどんな共同研究ができるかを探りたい」と期待を込めた。愛媛大からの派遣は初めてという。【松倉展人】

会議は今年で65回目。例年30人前後のノーベル受賞者が招待されるが、今年は化学、物理学、医学・生理学部門の合同会議となるため、例年より多い65

学)の学位を取得。翌

【松倉展人】



ノーベル賞受賞者会議を心待ちにする落合さん—愛媛大で